

琳派から近代洋画へ

数寄者と芸術パトロン
即翁、酒井億尋



①重要文化財 躑躅図 尾形光琳筆 江戸時代[後期展示] ②土器皿<菊> 尾形乾山 江戸時代
③扇面月兔画賛 本阿弥光悦筆 江戸時代[前期展示] ④薔薇 安井曾太郎 1938年(個人蔵)

2025.
1.18(土) ▶
3.16(日)

[前期] 1.18(土) ▶ 2.16(日)
[後期] 2.19(水) ▶ 3.16(日)



一巡したあとで
もう一度
めぐりたい

畠

EBARA HATAKEYAMA
MUSEUM OF ART
荏原 畠山美術館

休館日 | 月曜日(ただし2月24日は開館)、2月25日[火]、展示替日(2月18日[火])
開館時間 | 10:00~16:30 ※入館は閉館30分前まで
入館料 | 一般 1,500円[1,300円] / 高・大生 1,000円[900円]
※[]内はオンラインチケット・20名以上の団体料金 ※その他、解説付きの鑑賞チケットも提供予定(詳細は後日ウェブサイトに掲載) ※中学生以下無料(ただし保護者の同伴が必要) ※障がい者手帳をお持ちの方とその介護者各1名は無料
主催 | 荏原 畠山美術館 | <https://www.hatakeyama-museum.org/>



荏原 畠山美術館

株式会社荏原製作所の創業者・畠山一清(一八八一〜一九七一)のコレクションを公開するために一九六四年に畠山記念館として開館。本年度開館六〇周年を迎えます。二〇一九年より改築工事のため長期休館中でしたが、このたび開館の運びとなりました。また、「正式名称は新たに「荏原 畠山美術館」へと変わります。これまでの活動をさらに充実させ、より多くの方に楽しんでいただける美術館を目指してまいります。

畠山即翁と與衆愛玩

畠山一清は、実業家でありながら、「即翁」と号して、能楽や茶の湯をたしなむ数寄者でもあり、茶道具を中心に、五十年をかけて美術品の蒐集に励みました。即翁の愛蔵印に刻まれている「與衆愛玩」という言葉には、「自らのコレクションを独占するのではなく、多くの人と共に楽しむ」という思いが込められています。当館は即翁のこの精神を受け継ぎ美術館活動を進めています。

関連イベント

▶茶室公開

「近代の数寄者 畠山即翁の茶室で一服」
通常非公開の茶室「浄楽亭」にて季節の主菓子とお抹茶をお出しします。

- ① 1月30日(木) / ② 2月24日(月・振休)
- 各日2回開催(10:30・13:30) ■ 定員:各回12名(事前予約制)
- 料金:一般2,300円/学生1,900円(入館券込み) *オンラインチケット限定販売
※申込・詳細は公式HPにてご確認ください



[アクセス]

- 都営浅草線「高輪台」駅下車A2出口左手交番を左折徒歩5分
- 東京メトロ南北線・都営三田線「白金台」駅下車1番出口右手コンビニを右折徒歩10分

※一般来館者専用の駐車(輪)場はございません。公共交通機関をご利用ください。なお車いす用駐車場(1台)は、事前に予約された方の専用駐車場です。予約方法は当館のウェブサイトでご確認ください。

▼次回展覧会

開館記念展Ⅲ(急)
松平不昧と江戸東京の茶(仮)
2025年4月12日〜6月15日

畠

EBARA HATAKEYAMA
MUSEUM OF ART
荏原 畠山美術館

公益財団法人 荏原 畠山記念文化財団
〒108-0071 東京都港区白金台2-20-12
お問い合わせ | 050-5541-8600 | ハローダイヤル |

公式HP <https://www.hatakeyama-museum.org/>



数寄者と芸術パトロン 即翁、酒井億尋

琳派から 近代洋画へ

畠山即翁(1881~1971)が築いた一大コレクションのなかで見逃せないのが琳派の作品です。本阿弥光悦書、俵屋宗達下絵の「金銀泥四季草花下絵古今集和歌巻」(重要文化財)や、尾形光琳の「躑躅図」(重要文化財)など琳派を代表する作家の優れた品を多数集めています。桃山時代から江戸時代中期、後期に続く琳派の流れを系統的に網羅しました。その背景には大正期を黎明とする近代の琳派研究と、益田鈍翁や原三溪ら、同じく琳派作品を蒐集した先達の数寄者らへの思慕がありました。

開館記念展の第二弾は、当館が誇る、琳派の歴史を彩る名品が勢ぞろいします。さらに、開館記念展Ⅰにつづき、

即翁の甥で、荏原製作所社長を継いだ酒井億尋のコレクションをご紹介します。若き日に画家を目指し、即翁の茶会に参加する一人でもあった酒井のコレクションには、川上涼花や中村彝、津田青楓ら親交のあった日本の洋画家の作品をはじめ、印象派や20世紀フランスの代表的作家の作品も含まれています。

本展では、琳派から近代洋画まで、作品と愛蔵者、作家と支援者の関係に注目します。作品にまつわるエピソードとともに、作品の新たな魅力にふれる機会となれば幸いです。

なお、会期後半の2月19日から3月16日の間に「次郎左衛門雛」を特別展示いたします。



ま るで童子のような顔立ちや
体型が愛らしい、七福神の一人、
布袋さま。横浜の生糸王、原三溪の旧蔵品。

布袋図 尾形光琳筆
江戸時代(18世紀)
[前期展示]



重要文化財 赤茶碗 銘 雪峯
本阿弥光悦 江戸時代(17世紀)
[通期展示]

即

翁がこよなく愛した
茶碗。なだれる
ように掛けられた
白釉を山嶺に
降り積もる白雪に、
火割れを雪解けの
溪流になぞらえて、
光悦みずから
命銘したという。



向日葵図 鈴木其一筆
江戸時代(19世紀)
[後期展示]

真

つすぐに伸びる向日葵の花を
真正面からとらえた構図。
単独モチーフとして向日葵を描く、
まったく新しい草花図の世界が広がる。



立葵図 尾形乾山筆
江戸時代(18世紀)
[後期展示]

立

葵は光琳・乾山がともに好んで題材とした花。
真正面にとらえた立葵の花は、光琳よりも、より装飾的。



静物 中村彝
大正13(1924)年
[通期展示]

鳶

の葉を金、
ツツジの花を銀で
描いた豪華な紙に、
和歌が書かれる。
ほかに竹と梅の下絵。
宗達と光悦による
書画の
コラボレーション。



重要文化財 金銀泥四季草花下絵古今集和歌巻
本阿弥光悦書・俵屋宗達下絵 江戸時代(17世紀)
[前期展示]

大

正十五年の『中村彝作品集』で「絶筆」として掲載されて以降、
中村彝の画業を紹介する画集や図録で常に最後を飾ってきた。



風神雷神図 酒井抱一筆
江戸時代(19世紀)
[前期展示]

風

神・雷神を屏風で
なく、二幅対の
掛軸にして、縦長の
画面を効果的に
使用した佳品。

京 都の祇園祭の鉾に結び付けて
つるした飾りに似ていることから
名付けられたとされる、
原三溪旧蔵品。



結鉾香合 尾形乾山
江戸時代(18世紀)
[通期展示]

宗

達の扇面、光琳の団扇と
言われるように、
光琳の得意とした円形の構図。
団扇としての体裁を
とどめる貴重な一品。
反対側には秋草が描かれる。



八橋図・秋草図団扇 尾形光琳筆
江戸時代(18世紀)
[前期展示]



草花図屏風 川上涼花
大正7(1918)年推定
[通期展示]

西

洋のモダンアートと
日本の題材・筆法を融合した、
象徴的な装飾画面。
近代日本画の支援者・細川護立に
購入されたものを、
のちに酒井億尋が買い戻した作品。